

小松中央地区

(石川県小松市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 342ha
- 交付対象事業費 2,393百万円
- 市人口 106,544人

ポイント 地区内に残る歴史的・文化的遺産を生かした回遊性のある歴史文化回廊の整備。

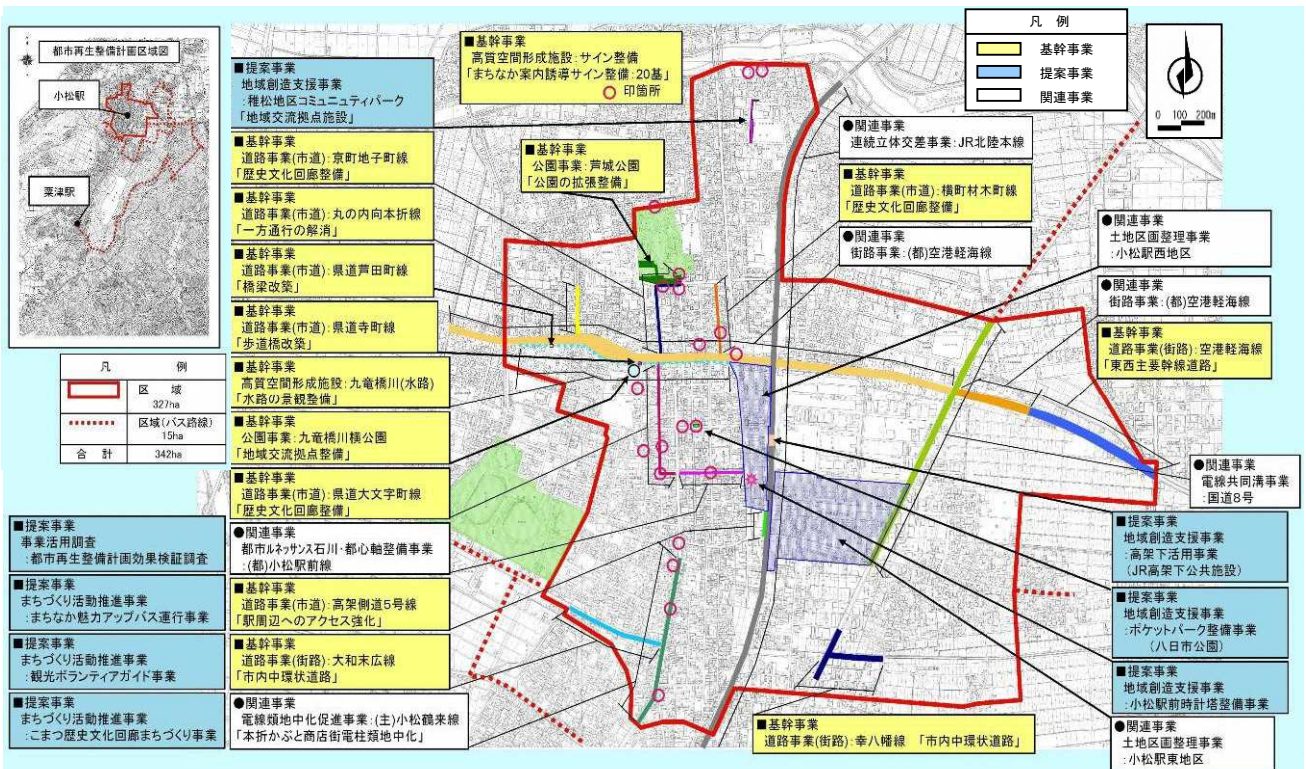
地区概要 町屋や寺院などの歴史的建物が多く残っている城下町として形成された市街地の歩行者ネットワークを形成し、賑わいのあるまちなかを再生する。

目標 南加賀地域の中心として栄えた小松中心市街地に集積する歴史・文化施設と「お旅まつり」などの文化遺産を活用し、地区内に点在する歴史的・地域資源のネットワーク化を進め、住む人、訪れる人が楽しく集い、交流し、優しくふれあうまちづくりを目指す。

指標 回遊ルートである歴史文化回廊を創出することにより、文化施設の利用者数、及びお旅まつりでの観光客数が増加する相乗効果を目指した。

歴史文化施設の利用者数	219千人/年 (H16)	→	260千人/年 (H21)
主要観光イベントの観光客数	268千人/期間 (H16)	→	350千人/期間 (H22)
商店街の歩行者数	11千人/日 (H16)	→	15千人/日 (H21)
コミュニティバスの利用者数	40千人/年 (H16)	→	120千人/年 (H21)
歩道・歩車道共存道路の整備率	11% (H16)	→	17% (H21)

事業内容 基幹事業 (2,085.5百万円) → 道路 (幅員6m～30m、延長2,515m)、公園 (2カ所3,720㎡)、九竜橋川修景等整備 (延長795m) サイン整備 (20基)
 提案事業 (307.5百万円) → 高架下公共施設 (660㎡)、ポケットパーク・コミュニティパーク整備、時計塔整備 (1基)、魅力アップバス運行事業、ボランティアガイド育成、こまつ歴史文化回廊検討事業、都市再生整備計画効果検証調査



地区の現況と課題

本都市は、小松空港を有する南加賀地域の中心都市であるが、その中でも、本地区は、小松駅を中心に栄えた旧市街地である。しかし、近年、人口の減少や、高齢化の進行、商店街の衰退、観光客数の減少等により賑わいが失われているため、JR小松駅付近連続立体交差事業がH15年度に完成したことを契機として、早急に中心市街地の活性化を図る必要がある。



▲ シャッター通りとなっている商店街

提案事業の特徴

高架下活用事業 高架下公共施設

連続立体交差事業により新たに生み出された鉄道高架下に交流施設を整備することにより、高架下空間を有効利用するとともに、駅周辺商店街との連携を図りながら、施設を利用する市民、駅利用者、観光客の回遊性を高めることにより、まちなかの賑わいを創出する。



▲ 高架下公共施設整備（遠景）

ポケットパーク整備事業 八日市公園

老朽化により10年間使用していない立体駐車場を解体して、歴史文化回廊めぐりをする観光客の休憩所や、商店街のイベント広場として利用できる公園を整備する。



▲ 高架下公共施設整備（近景）
ライブハウス「The MAT'S」

計画策定プロセス

ワークショップ等の開催

本地区では、「小松市中心市街地等活性化基本計画策定委員会（H10.9～H11.3）」により地域活性化の方向性が議論されており、その後「高架下利用基本計画策定委員会（H13.1～H14.1）」、「こまつまちなかサイン整備計画策定委員会（H15.9～H16.3）」、「材木町歴史文化回廊まちづくり協議会（H16.2～）」など、市民参加により個別事業の検討が進められ、H16.6に高校生も交えて開催された「こまつ都市再生フォーラム」を通じてまちづくりの気運が高まり、計画を策定した。

継続的なまちづくり

「こまつファッションタウン推進協議会（H12.6～）」により偶数月にイベントを開催し、商店街の活性化を推進している。



▲ 「都市再生フォーラム」の様子